

日本英学史学会中国・四国支部

ニューズレター

No. 108

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

令和 5 年度 第 2 回 (通算 88 回) 研究例会の報告



庄原英学校碑前にて

2023 年 12 月 9 日 (土)、庄原グランドホテル (広島県庄原市西本町 2 丁目 16-5) において、令和 5 年度第 2 回 (通算 88 回) 研究例会を開催しました。参加者が一同に会する対面実施は 2019 年 12 月の津山例会以来となります。当日は天候にも恵まれ、「中国・四国」を標榜する私たちの支部が想定するエリアを超えた各地から 18 名の参加を得、盛会裏に会を終えることができました。ご参加くださった皆様、準備段階から当日の実施にいたるまで、ご支援くださった関係機関の方々に篤く御礼申し上げます。

写真は当日史跡見学の一環として訪れた庄原市民会館前で撮影したものです。参加書の後方に、この地に明治 17 年から 25 年までの短期間存立した庄原英学校の址を記した石碑「英学校址」(昭和 23 年建立)と、英学校の説明を記したパネル(令和 4 年設置)が写っています。

次頁より、当日の研究例会の流れと、参加者の感想を掲載します。



開会行事 (14:00~14:05) 支部長挨拶 馬本 勉 (県立広島大学)

研究発表 (1) (14:05~15:15)

「佐川春水の英訳 ―虚子の俳句―」

森 悟 (日本英学史学会・日本英語教育史学会会員)

【発表を終えて】

明治・大正・昭和の英語教育を牽引した佐川春水は「雨人 (うじん)」という号をもつ俳人でもあった。そんな春水は戦後、故郷の松江に戻り、島根大学の学生に英作文を教えているが、その際に用いた講義ノートには高浜虚子の俳句が 10 句英訳されていた。どれも見事な英語に置き換えられていて、春水の英語力の高さを示す貴重な資料になっているが、そのうち未発表だった 6 句を今回明らかにすることができた。また、春水自身の句もいくつか紹介することができた。特に、死の 2 週間ほど前に詠んだ「寒雷の いさぎよかりし ただ一度」は俳人・佐川雨人の集大成とも言える作品であり、それを参加者の方々に知っていただいたことは何よりの喜びであった。

【参加者の感想】

◆松江における春水の様子、そして自身が残した俳句、さらには虚子の句の英訳と、実に豊かな内容を明快かつ面白く紹介された。その見事な話術に聞きほれながら、「春水もこんな話し方をしたのではないだろうか」と思っていました。俳句の解釈は個人によって様々で、生活背景や人間関係、そのときの心情によって異なっていきます。虚子とそれを英訳した春水、そしてその解釈に一部異を唱えた森先生の発表は学界に広く伝えていくべきものだと思います。論文化を期待します。(阿蘇山)

◆佐川春水による高浜虚子の俳句 6 句の英訳を紹介されたご発表でしたが、紹介に止まる点が惜しまれます。佐川の英語力を高く評価するべく「景」「情」を合わせて各句の英訳を取り上げられましたが、この英文を、例えばネイティブ数名に依頼して英語力の観点から評価してもらうなど、客観的な評価につなげる形がとれたのではないかと思います。さらに、今回のご発表は『日本英語教育史研究』(第 38 号) 掲載稿とは異なって、虚子の句の英訳に特化していることから、英訳俳句や英語俳句についての研究はある程度行われておりますので、これらをも踏まえうえてこの佐川による英訳俳句の特徴を分析していただき、ぜひ、研究論考としてまとめていただくことを願っております。(Dragon)

◆森先生の発表の語り口調からは、佐川春水にどれだけ心酔しているかが窺えました。佐川が俳句の英訳を島根大学の授業で用いた理由は、二人の師 (高浜虚子と斎藤秀三郎) への敬意の表れ、感謝の気持ちの表れのように感じました。(YH)

◆格調高い発表に聞き惚れました。また森先生の佐川春水への心酔ぶりがよく伝わるご発表でした。次回は佐川の教授法等、教室での具体的な姿をお示しいただけますことを期待しております。

(E. Woodhouse)

◆質問時にもあったように、森先生のご発表はつい聞き入ってしまう魅力があり、いつも興味深く拝聴しております。春水が非常に笑いの絶えない授業を行っていたのに反して、あまり出版活動は行っていなかったという話を伺い、春水は研究よりもまして、教えることがとても好きだったのだらうと思いました。工夫の凝らされた俳句の英訳と共に、春水の人柄が存分に伝わるご発表だったかと思います。引き続き、調査および発表の方を楽しみにしております。(ポレポレ)

◆佐川春水の英訳について研究発表された森先生に敬意を表します。春水の英訳を理解するためには、その人の人間像というものを知らないとう理解できないことがわかり、先生が自らの足で春水の生の情報を収集されたことには大変なご苦労があったことと思います。先生のお話からは島根大学時代の春水の姿や人となり伝わってきて、とても興味深いものがありました。

そして、英訳というものは単語の大文字と小文字でその内容が違ってきたり、**history** を **hist'ry** としたことや感嘆符をなぜつけたのかなど細かなところに注目し解釈していくことなどは大変奥が深いことだと感じました。

ただ一つ、素人の私が質問者と同じ思いだったことは、24 頁の句の英訳を耳で聞いていて日本を **Japan** と言わずに **Nippon** と言われたことで、にっぽん？と思わず資料を目で追いました。

それから、これはお願いなのですが、春水が書いた色紙を見せてくださった時にカバーのままだったため照明が反射して見えづらかったので、できればカバーから出して見せていただきたく思いました。

なかなかこういう機会はない中で、貴重な研究発表を聞かせていただきありがとうございます。ありがとうございました。
(むかしは乙女)

◆森悟先生はご著書『評伝 佐川春水』において俳人としての春水について詳しく書いておられます。今回春水の講義ノートに記された高浜虚子の俳句の英訳について分析され、その発表内容もフロアの先生方との質疑応答も大変興味深いものでした。(安部規子)

◆佐川春水といえば受験英語と関係があると思っていましたが、松江では俳句で有名だったとははじめて知り、佐川の多面的才能に驚きました。(Y.Y.K.M.)

◆森悟先生のご講演を初めて拝聴しました。現場で教える教員として、大変感銘を受けました。虚子の俳句を教材として活用することにより、日本の様々な文化を学びながら、日英の文化比較をすることができることがよくわかりました。英語力の向上、とりわけ、文化(俳句)というコンテンツを通じて、深い学びができます。授業で俳句を指導する際の参考になりました。ありがとうございました。
(中舛俊宏)

◆佐川春水の魅力を伝える森先生の語りが大変魅力的で、感銘を覚えました。思わずたくさんの質問をさせていただきましたが、いずれも丁寧にご回答くださり、感謝いたしております。名講義というのは、内容の素晴らしさに伝え方が加味され、出来上がっていくのだらうと感じました。森先生のご発表は、聞く者を唸らせ、愛された春水の講義に通じるものであると感じた次第です。

懇親会では森先生の語りの秘密をお尋ねしましたが、そこにあるのは聞き手を思い遣り、伝えた心であることを教えていただきました。私自身の語り方を見直す機会となりました。ありがとうございました。(White Horse)

研究発表(2) (15:30~16:40)

「森 修一(庄原出身)の独案内に見る明治期の英語学習法:

林 十次郎(広島県土族)の独習書との比較を試みて」

馬本 勉(県立広島大学)

【発表を終えて】

明治期の英語独習書は分析方法が確立されておらず、発表者の先行研究においても類型別の特徴を記述し例示するにとどまっていた。特に「独案内」と呼ばれる独習書は、教科書の本文に加え、発音、語義、訳し方を示す数字や記号、意識など、さまざまな情報が含まれています。庄原英学校で用いられた *New National Readers* に限っても、膨大な数の独案内が発行されており、その分析は未だ試行錯誤の段階にとどまっています。今回、庄原出身の森 修一による独案内を、同時期に発行された林十次郎(広島県土族)の独案内と比較することにより、双方の特徴を記述していきました。発表に対し様々な質問やコメントをいただき、明治期に庄原で行われた英語学習の解明へ向けての示唆を得ることができました。今後も地道に続けていきたいと思えます。

【参加者の感想】

◆英語と格闘を続けた日本人の記録、それが英学史であると私は考えています。そこには英語を学ぼうとする学生と、それを後押しする人物がいます。その人たちは自分の英語力が未熟であることを十分自覚しながらも、精一杯の智慧を出して独自の教材や教授法を開発します。森修一と林十次郎の独習書には、そうした両者の苦心の跡が残されており、これを明らかにされた馬本先生には心から敬意を表します。これからさらに精度を高められ、両者の価値ある足跡を文字にして今後に残されることを強く望みます。(サト坊)

◆複数の独案内を取り上げてその間にある影響関係を分析することは類書の系統化・系列化を進める作業の第一歩となるもので、いよいよその作業に取りかかれるかとこれからの進捗を期待するところです。ただ、今回のご発表は森修一と林十次郎がともに広島関係者であることから比較の対象にされたとのことですが、両者ともにナショナル・リーダー第3巻の独案内とは言え、いずれもごく近い時期の刊行ですので、その間に影響関係を見出すことは困難かと思われ、今後、対象の範囲を拡げていただくよう、期待しております。

その際に、いくつか分析の視点を設定されて比較対照されると作業が進めやすいかと思われ、例えば、質疑応答中に出た発音表記にかかっては、半濁音表記の「゜」がパ行音以外にどのように転用されているか、[l] vs [r]、[b] vs [v]、[s] vs [θ] などの区別にひらがな、カタカナを利用しているか、あるいは、他の記号を添えているか、さらに、母音の表記では、例えばいずれも日本語で「ア」とまとめられかねない [ɑ]、[æ]、[ʌ]、[ə] をどのように表記し分けているか、等々が例示できようかと思います。加えて、独案内間の影響関係に限定せずに、これも質疑応答中にありましたが、単語集や英語入門書などからの影響も可能性として含んでおくことが必要かと考えます。広汎な領域にわたっての分析が可能かと思われ、ご研究のさらなる進展が待ち望まれます。(Dragon)

◆独案内の研究の奥深さを感じさせる大変興味深い発表でした。森修一の英語学習歴が解明されることを期待しています。(YH)

◆森、林両先生のカタカナによる音声表記について、林先生の方がネイティブに比較的近い表示を当てているように資料を読みました。(池本康彦)

◆いつもながら、大変興味深いご発表をありがとうございました。やはり、参考書研究は拝聴していてとても面白いです。必ずしも著者だけの意志ではないかもしれませんが、各教材にはさまざまな工夫が施され、特に今回は正誤表の存在を伺い、とても興味深かったです。1887 年周辺は英語参考書の刊行が爆発的に増え、質の低いものも多く広まった時期だったかと記憶しております。内容の誤りなどはないがしろにされたり、むしろ誤りだということさえ気づかないような、いち庶民が編纂したようなものも散見される時期において、正誤表をつける、ある意味で真摯な参考書の存在はとても貴重だと思いました。今後のご研究も楽しみにしております。(ポレポレ)

◆英語という発音や構造の違う言語をいかに日本の学習者に理解させるか、先人たちの知恵や工夫の詰まった英語独り案内について、今回は森修一と林十次郎両者の独り案内を比較されたご発表は大変興味深いものでした。学習上の工夫にも「系譜」があるのではとのお考えを示されたましたが、これに対して竹中先生が極めて示唆に富むヒントを示されました。「系譜」が明確になることを期待しております。(E. Woodhouse)

◆今回のご発表では、『庄原英学校設立 125 年記念 庄原英学校の歴史と英語教育』の「森修一の『独案内』から見た庄原英学校の英語教育」に執筆された内容を復習しつつ、さらに発展して、森の独案内に見られる「意識」の提示を始めとする独自の工夫が、林十次郎のものとの比較により明らかにされました。また、森修一という人物について、馬本先生が庄原に來られてから多くの新情報を発掘された経緯などもおうかがいできて、大変参考になりました。(安部規子)

◆独案内から浮かびあがる明治期の学習法にますます興味がわいてきました。地元ならではの発表で、森修一の人物像もおもしろいと思いました。(Y.Y.K.M.)

◆馬本先生の独習書のご講演を初めて拝聴しました。当時の生徒の学習状況を知ることができる大変良い機会となりました。また、実物のコピーを配付いただき、具体的によくわかりました。先生のご講演から、森修一の人物像や英語力がよくわかりました。これだけの独習書が版を重ねて発行されたということは、森修一の英語力がきわめて高かったこと、そして当時このような人物を生み出した庄原に高い教育力があつたことが窺われます。庄原英学校を生み出したこの地に魅力を感じます。

(中舛俊宏)

◇◇◇

閉会行事 (16:45～16:50) 副支部長挨拶 松岡博信 (安田女子大学)

庄原英学校関係資料・史跡見学 (17:00~18:00)

庄原市田園文化センター (17:00~17:30)

庄原市歴史民俗資料館・庄原英学校関係展示、倉田百三文学館・百三関係資料を見学
庄原英学校址ほか (17:30~18:00)

庄原市民会館前の英学校址 (庄原英学校碑)、庄原グランドホテル隣の百三広場を見学



忘年懇親会 (18:00~20:00)

庄原グランドホテルにて対面開催。14 名が参加。久しぶりの対面での忘年会で和やかなひとときを過ごすことができました。

【研究例会全体についてのコメント】

◆事務局の河村先生、馬本先生の穏やかな人柄が会場を包んでいて、何とも言えない和やかな雰囲気が醸し出されていました。活発な質疑応答もそうした土壌から生まれたものだと思います。ご苦勞様でした。会場の照明がもう少し明るければ、資料の文字も読みやすかったのではないかと感じました。
(サト坊)

◆閉会の挨拶でもありましたがアクセスの不便な庄原で 18 人もの参加者が集まったことは、ひとえに馬本支部長の人徳の賜物であったと私も思いました。例会会場、懇親会会場、宿泊場所と極めて近くてとても良かったです。ありがとうございました。(YH)

◆今回は久しぶりの完全対面開催ということで、とても充実した時間を過ごすことができました。運営や設営、ご参加に関わるすべての皆様にあつく御礼申し上げます。実際の調査資料を直に拝見できたり、会場の空気感も含めて、対面でしか味わえない感覚を久々に享受できたような気がいたします。懇親会も大変に美味しく楽しく、今回参加できたことをとてもうれしく思います。ありがとうございました。(ポレポレ)

◆会員の先生方と久しぶりに直接お会いできた例会でした。閉会後の田園文化センターと庄原英学校址の石碑の見学もよかったです。馬本先生、河村先生には大変お世話になりました。(安部規子)

◆ようやくかなった庄原研究例会ということがあつてか、あるいは、久しぶりの完全対面実施ということがあつてか、近年にない参加者数を得て、中国・四国支部の管轄範囲である山陰・山陽、四国は言うに及ばず、関東、九州からもご参加をいただいて充実した例会であつたと嬉しく思いおります。例会会場がそのまま懇親会場につながり、宿泊にいたるまで1ヶ所にまとめていただいたこともゆったりとした例会参加につながって、ご当地までの往復もさほど苦になりませんでした。お世話下さった馬本先生・河村先生に御礼申し上げます。

ただ一点だけ。いつもの例会日程と変わらぬ形でプログラムをお組みいただきましたが、最後に置かれた「庄原英学校関係資料・史跡見学」を開会行事に続いて、あるいは2本の研究発表の間にに入れていただくと、特に「英學校址」見学などは明るいうちに行えてよかったのではないかという点が残念に思われました。冬至に近いこの時季、5時ごろにはすでに暗いので、今後、年度第2回例会にこの種のプログラムをお組みいただく際には参酌いただければと希望するところです。(Dragon)

◆3年ぶりの対面での研究例会、天候にも恵まれ、参加者の数も多く、質疑応答も活発に行われ、史跡見学も楽しく、懇親会での会話も弾み、非常に充実した1日でした。庄原での開催に尽力された馬本先生や河村先生に心からお礼申し上げます。(E. Woodhouse)

◆久しぶりの研究例会に参加でき、始まる前から楽しみにしていました。広島からの芸備線の景色を楽しみながら、たまたま乗り合わせた同好の士と英学史談議に庄原までの約2時間の列車の旅もあつという間でした。史跡見学まで準備していただき、庄原英学校跡、三百年の樹齢を誇る藤木の桜をみて、庄原英学校で学問に励む生徒の声が聞こえてきそうでした。倉田百三の「青春は短い。宝石の如くにしてそれを惜しめ」のことばを胸に、英学史研究に精進せねばと思いました。事務局の方には本当にお世話になりました。(Y.Y.K.M.)

◆大変興味深い研究を2本企画してくださり、内容も教材と参考書という異なるテーマでバランスもよかったです。大変充実した会となりました。その後の庄原英学校関係資料・史跡見学では、丁寧に説明してくださり、あらためてこの地の英語文化に直接触れることができ、感謝します。馬本先生、河村先生には、大変お世話になりました。ありがとうございました。(中舛俊宏)

◆英学史には全くの素人ですが、なんの違和感もなく参加することが出来ました。ありがとうございました。とても充実した時間でした。

ただ、残念でしたのが、学生の参加がなかったことです。若い方には是非聞いてほしかったです。感想を短歌にしました。

- ・義弟の発表聞かんと庄原へ居眠りもせず英学史聞く
- ・学術に縁遠く暮らし来たれども英学史学会のファンになる

(こによ)

庄原市田園文化センター内
歴史民俗資料館
庄原英学校展示より
森修一関係資料



事務局からのお知らせ

◇年会費の納入について

2023 年度会費（一般 3,000 円，学生 2,000 円）をご納入くださり、まことにありがとうございます。
これからお手続きの方は、次の振込先まで、どうぞよろしくお願い致します。
（振込手数料は各自でご負担ください。）

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合
（口座番号） 01360-9-43877
（加入者名称）日本英学史学会中国・四国支部

ゆうちょ銀行へ他の金融機関から振込む場合
（店 名） 一三九（イチサンキュウ）店（139）
（口座番号） 当座 0043877
（加入者名称）日本英学史学会中国・四国支部

◇2024 年度第 1 回（通算 89 回）研究例会 発表者募集

2024 年度支部総会ならびに第 1 回（通算 89 回）研究例会を次の通り対面で開催いたします。

日時： 2024 年 6 月 1 日（土） 12:30 受付開始

13:00～ 支部総会 14:00～ 研究例会 18:00～ 懇親会

会場： 安田女子大学（広島市安佐南区安東 6-13-1）

※従来の 5 月第 4 土曜日は、支部長・事務局長の所属大学にて大学行事が予定されておりますため、翌週の開催に変更しております。ご了承ください。

研究発表を次の通り募集します。事務局までお申し込みください。

発表時間は、口頭発表 50 分間＋質疑応答 20 分間、計 70 分間です。

申込期間： 2024 年 3 月 1 日～4 月 1 日

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.108 2024 年 2 月 29 日発行

発 行 日本英学史学会中国・四国支部（代表 馬本 勉）

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562

県立広島大学 生物資源科学部 英語研究室内

電話： 0824-74-1727（河村研究室直通）

e-mail: eigaku.chushi@gmail.com

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部